

社団法人設立を記念して

# 義太夫協会々報

## 創刊号

昭和46年5月10日発行

東京都台東区上野2丁目6番地7号

社団法人 義太夫協会 TEL (831) 6137

### 頑固者の挨拶

吉川英史

義太夫協会の幹部の中には、NHKの邦楽育成会の出身者がいる。その人たちが含まれていることが、義太夫協会とわたしとを何となく近しいものにしていった。

わたしは近年の義太夫界の凋落ぶりには、悲しみよりも、一種の義憤を感じていたし、女流義太夫界の実力が、余りに知られていないことに驚いていた。しかし、まさか義太夫協会の会長になろうとは思わなかったことである。

わたしは、現在音楽学会や美学会の委員、東洋音楽学会や日本歌謡学会の理事、新内協会や長唄協会の顧問、日本琵琶楽協会の副会長などを勤めているが、会長というものになつたのは、今度が初めてである。

ここで思い出すのは、十数年前のこと、大阪のある日本芸能の集団が生まれる時、はるばる大阪から拙宅に来て、その顧問になってくれと依頼された時のことである。わたしは次のような返事をした。

「わたしは邦楽の研究や評論で生きている人間です。そのわたしの主義や主張と違つたことをされたばあいには、その団体の顧問に加わっていることは困ります。それかといって、東京在住の一顧問の身として、大阪の会のことを左右することはできません

ん。その点、宮様が顧問になられるようなばあいとは違います。」

すると、相手は苦笑しながら、

「ごもつともです。しかし、あなたはなかなか頑固ですね。何の歳ですか。」

わたしが、「酉」と答えると、相手は不審そうに、「何月生れか」と聞く。「二月」と

答えると、「ナルホド、それでは胎中のことを計算すると、あなたは申ですよ」とのこと。それから家族一同の占が始まった。

所で、右のようなのを頑固というのであれば、わたしは確かに頑固である。しかし、それのような頑固さを、わたしは今でも悪いとは思っていない。——そんな所が頑固なのであるろうか。

芸大に邦楽科を置くことを主張して、同志と共に辛棒強く運動して成功したのも、この



頑固のおかげ、数ヶ年かかって、数十人の聞き書をもとにして「宮城道雄伝」をまとめることができたのも、頑固のおかげと思つてゐる。

こんな頑固なわたしを会長に迎えた義太夫協会の皆さんは、さだめし扱いにくいことがあつて迷惑されるかも知れない。しかし「馬鹿と缺は使しよう」という言葉もある。どうかわたしの頑固をうまく利用して頂きたい。

義太夫協会は、すでに「社団法人」という太鼓判を押して貰っている。ということは、国家的に、客観的にその内容や目的が認められたわけである。しかし、広く一般民衆から認められるのは、今後の協会の努力にまたねばならない。日本が誇る偉大な古典芸術義太夫節の伝承と発展という悲願を成就するため、わたしの頑固が、少しでもお役に立てば幸いである。

他人の意見に耳を貸さず、自分の主張だけを押しつけるのを頑固というのであれば、わたしは絶対にそんな頑固な者ではない。わたしは幼年時代にはある宗教の教会を遊び場に、毎日、父母に連れられてお説教を聞いたし、青年時代には、一時教会を宿にして朝晩説教を聞いたものである。ひとの話聞くことには、相当ならされている。

わたしとしては、協会の内外の意見や忠告に耳を傾け、協会の運営方針を定めたい。そして、一端決定した方針は、頑固と見えるまでに、熱心に辛棒強く実現につとめようと思う。何分にも絶大なるご協力をお願いする次第である。

会報創刊に寄せて

NHK放送総局  
副総局長 坂本朝一

陽春とともに義太夫協会の活動も、活発さを加えつつあることは、まことに喜びにたえません。今回の会報の発刊も、その積極性的一端として、今後大きく期待するものがあります。

現代は、情報化、宣伝時代と申します。政治や経済の各界がこの渦の中にある今日、芸術の世界、特に、芸能団体にとつても、内外の情報交換は将来の大きな課題と申せましょう。この点たしかに、日本芸能界は、一歩遅れたものを感じます。

今回の会報発刊は、この点を充分に意識された前進的な企画と存じます。  
義太夫をさらに広く大衆に愛されるものへと、常に、活発な演奏活動を続けられている会員各位にとつて、この会報は相互の芸道の研究と親睦のための情報として、大いに役立つことと存じますが、一方会報が対外的にも義太夫界の活躍を伝え、またその高い芸術の理解を深めるPRの一助となれば、まことに幸と存じております。

協会発展を祈って

豊澤 仙廣

木々の葉が新緑にもえる、野にも山にも……：  
浮き浮きとして唄いたくなる今日この頃、皆様も元気で

毎日義太夫を……赤毛せんの上に……、見台の前に「オヤ」この三十分間の幸福……一寸良くやれて舞台を下りた時、人様からほめられる時のその気持……人生最高の幸福……とはこの喜びではないかと思うのです。

夜半に嵐の……何んやら、語れる時に語り弾ける時に弾かなければ、と思えば、毎日でも舞台に出て三味線弾きたいと思う私です。

大分義太夫が盛り上ってきました。文楽も国立の成績上々で若い人の関手が増えて、土、日曜は何時も満員だそうです。次々と太夫に死なれて心配していた文楽も若人が大変な勉強ぶりで居眠りの出る義太夫は聞かれなくなり、活気ある舞台です。同じ物を私も二度聞きに行きました。女義もうか／＼して居ては、おくれを取ると、はりきりたい気持になりました。

東京は賛助会員皆様のご支援で社団法人を造り、内部を固める事に役員一同懸命に努力して居ります。女義本牧亭公演は正会員懸命の勉強場所です。

東京義太夫正会員の公演は毎月四日間の本牧亭です。毎日聞いて下さるご常連様五十名位で、百人前後の入りでございます。又十二月は四日間共二百人の大入りでございし、その嬉しさは筆には書きつくされませぬ。この紙上借りて正会員一同になり代り厚く厚くお礼申し上げます。義太夫協会展役員は一年間で五月の総会で役員改選です。賛助会員の皆様にも次回は役員になって戴き、如何にしたら東京義太夫界が盛り上がるか、良き知恵を拝借して、それを楽しんで現役員も懸命に協会の今後の仕事に取りこんで居ります。

賛助会員の皆様この義協は会費を納めている自分の協会という事をご自覚下さいまして、大阪の文楽協会に負けさせないように暖かいご声援、ご支援の程よろしくよろしくお願い申上げる次第でございます。

事業計画と実施

社団法人の認可を得て昨年六月再発足した義太夫協会は、当初の事業計画に基きこの一年その目的達成の為努力してきた。とは言っても初年度に於いては、それら各種事業計画の基盤作りを終始したとも言えるので、成果が大きく現われなかったのが実状である。急速な世の中の進歩に歩調が整わず、低迷を続ける古典芸能界にあって、一と際遅れをとっている斜陽芸術のわが義太夫が、何んとか現代社会に糾合されようとするには、相当の努力がいる。具体的にどうしたらよいか皆んなで真剣に考えたい難しい問題である。義太夫協会が法人組織となったのも、斯ういう重要な問題を解決する当然の責任と義務を協会が背負って行かなければならないからである。

今更で仮りに一つの建設的意見が提起されてもその実施の段階で挫折する。現実的な諸問題がそれに絡まるからである。併しそういった中で、とにかく我々は協会の責任において、事業計画の実施を序々に試みて来た。学校巡演や義太夫教室も今年度は充実した内容で実際活動のできる態勢を整いたいと思っている。偶々本年二月、川崎市教育委員会の要請で同市中学校音楽教師を対照に、第一回学校講演を行った。中学三年の教材となった義太夫「三十三間堂」の解説と実演、義太夫節の曲節分解等、四十数名の教師を前に約二時間余、竹本越道、駒竜両氏の熱演により、義太夫に始めて接する若い教師、三味線音楽、特に太棹に魅せられた教師等々、その反響大なるものがあって、古典を理解させ、紹介させるに貴重な体験をした。今後とも会員の賛助ご後援を頂き、各種事業を大きく実らせた

と願っている。  
——(常務理事)

祈り致します

- 豊竹湊太夫師 (45・6・25 歿)
- 轟 三国氏 (45・11・16 歿)
- 竹本 弥周師 (45・11・23 歿)
- 鶴沢 辰六師 (46・3・3 歿)
- 田中 源平氏 (46・4・14 歿)
- 大沢二四喜氏 (46・5・2 歿)

# 協会の動き

昭和45年6月16日より  
昭和46年4月30日まで

## (昭和45年)

6月16日 東京都庁より社団法人の認可。  
6月27日 総会準備委員会 7月9日の設立  
総会及び記念祝賀会の打合せ。吉川英史  
氏・豊沢仙広氏他旧協合理事多数出席。

7月1日~4日 女流義太夫本牧亭公演。  
重之助・三生・歳栄・清三他竹組出演。

7月9日 社団法人義太夫協会設立総会及び  
記念祝賀パーティー。上野タカラホテル  
会議室にて設立総会。正午開会、吉川会  
長の挨拶。仙広副会長の挨拶及び一般報  
告。理事及び役員の新承認。45年度予算  
書・事業計画書の承認。会長以下32名出  
席。続いて午後一時より大宴会場にて、  
社団法人発足記念祝賀パーティーが行わ  
れた。午後一時半開会。吉川会長挨拶。  
仙広副会長挨拶と経過報告。文部省盛岡  
無形文化課々長祝辞。NHK中山芸能局  
長祝辞。次に藤田三曲協会専務理事の音  
頭で乾杯。その後、寺中国立劇場理事長  
松前東海大学総長、南波文楽協会事務局  
長、加藤大日本素義会々長(長井氏代読)  
芳村長唄協会事務局長の各氏より祝辞を  
頂き、又、賛助会員の増田伊年子・小田  
切一鳳・その他の方々より建設的な意  
見を頂く。祝電(多数)披露の後、なご  
やかに歓談。大盛況のうちに、万歳三唱  
して目出度く散会。(写真別掲)

8月1日~4日 女流義太夫本牧亭公演。  
越駒・越道・駒竜・駒登久他梅組出演。

8月4日 役員会(正・賛助会員公演部)正

会員公演会(10月12日)についての打合  
せ。賛助会員公演会(10月19日)につい  
て。於本牧亭。部員4名出席。

8月5日 定例理事会、発足後第一回の理事  
会が中央区新場橋区民館で行われた。会  
長挨拶。正・賛助会員各公演会につい  
ての企画打合せ。学校巡演の検討その他。  
会長以下15名出席。

8月19日 役員会(正会員公演部)、正会員  
公演会の演目・配役及び入場料等を定め  
る。於本牧亭。部員4名出席。

8月29日 役員会(総務・各公演部)正・賛  
各公演会の演目・順序・配役及び当日の  
役割等の打合せ。女義公演の再検討等。  
於本牧亭。副会長以下10名出席。

9月1日~3日 女流義太夫本牧亭公演。  
土佐広・猿公・光末他藤組出演。

9月4日 故竹本素龍を偲ぶ会、女義演奏他  
桂文楽・林家正蔵・一竜斎貞丈各師出演  
9月12日 役員会(常務理事・総務部他)義  
太夫教室実施についての検討。(本年度  
はテキスト・教則本作製、実施の方法に  
ついての研究に力を注ぎ、46年度より実  
施と決定)於新小松。会長以下9名出席

9月28日 都内公演。前衛喫茶店「ステーション  
70」の舞台にて「野崎村」を演奏。  
出演は土佐広・仙広・朝重・津賀昇他。

10月1日~4日 女流義太夫本牧亭公演。  
小津賀・弥周・春華・綾一他出演。

10月9日 正会員公演会の総稽古。於新小松  
10月12日 正会員公演会 茅場町東京証券会  
館ホールにて昼夜二部制の興行。一部は一

人語り中心、二部は精選掛合五段演奏。  
男女会員多数出演。途中で会長・副会長  
の挨拶をはさむ。聴客八分の入り。入場  
料八百円。

10月19日 賛助会員仲秋公演会  
東京証券会館ホールにて賛助会員諸氏ご  
出演の許に開催。小品2・小唄10・15分  
語り8・20分語り10・前後の掛合等4の  
計34番。聴き手もかなりあって盛会であ  
った。来年は三越劇場の予定。入場無料

10月27日 都内公演 前記、「ステーション  
70」にて「壺坂」を演奏。出演は越道・  
春華・仙広・公純等。

11月1日~4日 女流義太夫本牧亭公演。  
重之助・素八・津賀昇・公純他出演。

11月4日 定例理事会 各公演会的一般、会  
計報告。祖先祭打合せ。本牧亭女義興行  
の配役等。於新小松。会長以下12名出席

11月30日 本牧亭女義の総稽古。於新小松。  
12月1日~4日 女流義太夫師走合同公演吉  
例の「忠臣蔵通し」を、掛合を中心に女  
義総出演。毎夜演目・配役替りにて賑や  
かに興行。4日間大入り。於本牧亭。

12月25日 祖先祭 11時本堂にて読経。正午  
祖竹本義太夫師他、多数の先輩諸師の墓  
参。12時半より別室にて会長と懇談会を  
行う。1時半散会。会長以下38名出席。

## (昭和46年)

1月18日 役員会(常務理事・監事他)  
義太夫教室の件・学校巡演の件・義太夫  
広報の件について検討し、各担当者を選  
定。於新小松。会長以下9名出席。

1月23日 役員会(渉外・女流公演部)  
NHK芸能局片山・石川・中井各氏を迎  
えて義太夫放送について意見の交換を行  
う。於新小松。会長以下8名出席。

1月30日 新年懇親会  
吉例の新年会を深川「一力」にて開催。





正午副会長の挨拶。入舟堂さんの音頭で乾杯。会食及び余興。3時福引き。3時半隅斗氏手ヲめにて目出たく散会。74名。

◎福引景品寄贈ご芳名(到着順敬称略) 素八・大谷菊香・猿三郎・古世根・弥乃

大夫・土佐広・堀一力・千登根・春華・吉野清松・加藤行輝・重之助・仙広・吉

平・横井素秋・中西紫孝・糸三・喜久太夫・越道・松七・戸叶・平井おひろ・島

春榮・三生・由雄・新吉・川村文心・朝重・龍盛・八木沢あやめ・新兆・猿公・

宮脇雪むら・松尾武市・松三郎・篠之助・篠田松竜・増田いね・渡辺隅近・河西つ

る代・高野喜代子・斉藤正鳳・勝村勝栄・佐々木通三郎・光末・渡辺兼佐・以上46氏80点。

2月1日~4日 女流義太夫本牧亭公演。越駒・三生・駒之助他梅組出演。

2月15日 学校巡演 川崎市高津中学校音楽室にて。午後二時より。(詳細は別記)

2月25日 役員会(学校巡演担当者) 2月15日の講演と実演についての反省会

於社会福祉会館。副会長以下6名出席。

3月1日~4日 女流義太夫本牧亭公演。土佐広・猿公・駒登久他藤組出演。

3月19日 定例理事会 総会についての打合せ。事務職員の仕事。年度公演会の企画について。会費値上げ、納入方法について

他。於新小松。会長以下13名出席。

4月19日 会員名簿発行。4月1日~4日 女流義太夫本牧亭公演。重之助・春華・仙広・駒之助他出演。

4月3日 委員会(常務理事他) 総会について。特に役員改選について検討。於西野氏宅。常務理事他3名出席。

4月9日 委員会(常務理事他) 総会について、特に決算・予算書、事業報告、計画書の作製。於西野氏宅。

5月10日 会報第一号(現号)発行

四十五年度義太夫協会 寄附金一覽 (敬称略)

Table of donors and amounts for the 45th year. Includes names like 加藤聚楽, 菊地秋月, 河野義松, etc., with amounts in circles.

Table of donors and amounts for the 46th year. Includes names like 楠窪一声, 小藤正鳳, 坂入春松, etc., with amounts in circles.

Summary table for the 46th year. Includes categories like 新年会, 賛助会員会, 竹植竹鶴, etc., with totals in circles.